

宝塚市中山台コミュニティ地区防災計画

平成 27 年（2015 年）11 月

中山台コミュニティ
災害対策委員会

目 次

1	地区防災計画の作成主旨・目的など基本方針	・ ・ ・ ・ ・ 2
2	策定主体の種別、規模、構成員	・ ・ ・ ・ ・ 2
	（1）種別	
	（2）規模	
	（3）委員会構成員	
3	地区の特性、地区防災計画が対象とする災害	・ ・ ・ ・ ・ 2
	（1）地区の特性 <人口的特性>	
	（2）地区の特性 <地形的特色>	
	（3）地区防災計画が対象とする災害	
4	「平常時」の取組み	・ ・ ・ ・ ・ 3
	（1）防災意識の啓発	
	（2）防災訓練の実施	
	（3）防災資器材の整備・点検	
	（4）情報伝達網の構築	
5	「災害時（非常時）」の取組み	・ ・ ・ ・ ・ 6
	（1）地区災害対策本部立上げ	
	（2）地区災害対策本部の役割	
	（3）安全確認	
	（4）エリア内外の連絡手段	
	（5）居住エリアごとの避難所開設	
	（6）避難所開設関連物資	
	（7）避難所となる建物への立入り	
	（8）飲料水兼用耐震性貯水槽の鍵の管理	
6	災害時要援護者（避難行動要支援者）の支援の取組み	・ ・ ・ ・ ・ 10
	（1）災害時要援護者（避難行動要支援者）名簿について	
	（2）災害時要援護者（避難行動要支援者）名簿の公開について	
	（3）災害時要援護者（避難行動要支援者）の災害危険情報 伝達手段について	
7	地区の具体的な防災対策	・ ・ ・ ・ ・ 11
	（1）所属団体の防災活動とその支援について	
	（2）防災・減災対策の啓発活動について	
8	防災マップについて	・ ・ ・ ・ ・ 12
9	計画策定後の研修、訓練実施の考え方	・ ・ ・ ・ ・ 12
10	災害対策委員会活動	・ ・ ・ ・ ・ 12
11	参考資料	・ ・ ・ ・ ・ 13
	（1）物品リスト	
	（2）電波伝搬調査結果	
	（3）無線機配置表	
	（4）大規模避難訓練スタッフ調整表	
	（5）災害対策委員会の成り立ちと団体関係図	

＜中山台コミュニティ地区防災計画＞

1 地区防災計画の作成主旨・目的など基本方針

大規模災害が発生して孤立し、ライフラインが止まった状況下でも、地域が一体となって、発災からの一週間を自分たちで生き延びることができることを目標に、計画を策定する。

2 策定主体の種別、規模、構成員

(1) 種別

「中山台コミュニティ災害対策委員会」（以下「委員会」という）

(2) 規模

宝塚市立中山五月台中学校区（中山台コミュニティエリア）の全住民

(3) 委員会構成員

中山桜台自治会、中山五月台自治会、中山五月台七丁目自治会、中山五月台六丁目自治会、中山桜台ラヴェニール自治会、ジャルダン壺番館自治会、ツウイング壺番館自治会、ツウイング宝塚中山弐番館自治会、宝塚中山ヒルズ自治会、中山桜台七丁目自治会、ジャルダン弐番館管理組合、セーリオ宝塚自治会、第六地区中山台民生児童委員連絡会、中山桜台小学校、中山五月台小学校、中山五月台中学校、中山五月台幼稚園、宝塚東高等学校、雲雀丘学園中山台幼稚園、晋栄福社会「中山ちどり」（以下「中山ちどり」という）、アクティブライフ中山倶楽部、クラレテクノ株式会社

3 地区の特性、地区防災計画が対象とする災害

(1) 地区の特性 ＜人口的特性＞

ア 人口 約14,000人、約6,000世帯、高齢化率 約33%（平成27年3月期 住民基本台帳より）

イ 高齢化地域と若年層地域がはっきり分離し、このため多様な高齢化課題が地域に山積している。

(ア) 高齢化により自治会活動が困難となって退会が増え、その結果、住民間交流は縮小傾向にあり、自治会消滅の恐れもある。

(イ) 山間部を開発してできた住宅地のため、車に依存する生活となっている。高齢化とともに、運転できなくなる世帯が増え、生活の移動手段の確保が懸念される。

(ウ) 犬や猫などを飼う世帯が多数あり、ペットとの共存共生が大きな課題となっている。

(エ) 大規模災害発生直後の混乱期における生活維持に不安を抱える。

(2) 地区の特性 <地形的特色>

山間部を削った切土とその土をうめた盛土のまちで、3つのロックヒルダム（岩石や土砂を積み上げて建設する型式のダム）が住宅地の土止めの役割を果たしている。また、土砂災害警戒区域が広範囲にあり、1つの指定避難所と予備避難所は、その中に位置している。

(3) 地区防災計画が対象とする災害

地震、土砂災害を対象とする。

4 「平常時」の取組み

(1) 防災意識の啓発

ア 委員会活動を通じて防災意識向上の為の取組みを継続的に行う。委員会は、各種団体から選出した委員と公募委員によって構成され、月に一度の定例会議を開催。「自分たちのまちは自分たちで守る」をスローガンに地域の防災力アップを目指す。

- イ 回覧や講習会を利用して、家庭内備蓄・住宅耐震補強を促す。
- ウ 自治会毎に発災直後の安否確認など、自主防災会の活動を強化する。その内容は、単位自治会の意向を尊重することとし、委員会から強制することはない。単位自治会が情報を求める時には、委員会からの提案も含めて情報提供を行う。
- エ 委員会ニュースを発行し、防災の基礎知識を広め、防災・減災の意識向上を目指す。

(2) 防災訓練の実施

- ア 所属団体ごとの防災訓練
 - (ア) 所属団体は、それぞれの規定にあわせて随時避難訓練を実施し、安否確認から一次避難に至る申し合わせ事項を定め、住民に周知する。
 - (イ) 所属団体の訓練等に必要な資器材貸与など、委員会への要請があれば可能なかぎり支援する。
- イ 中山台コミュニティエリア大規模避難訓練

中山台コミュニティエリア（中山五月台中学校区）で大規模避難訓練を年に一度実施する。指定避難所開設訓練、予備避難所開設訓練、福祉避難所開設訓練、地区災害対策本部訓練、耐震性貯水槽の水出し訓練、応急救護所受付訓練、その他訓練メニューは、定番メニューと年度ごとに委員会で決めるオリジナルメニューで構成する。地域住民で訓練を作り上げ、発災時に自ら進んで行動できる人を一人でも多く育てる訓練を目指す。

訓練メニュー（例）		
指定避難所	避難者受付訓練	受付け票を使って人数及び避難者を把握
	応急救護訓練	A E Dの訓練や骨折の手当など救急隊による講習を実施
	炊き出し訓練	年度毎に委員会で決めたメニューで実施
	自宅避難者搜索訓練	手上げ方式による災害時要援護者宅を訪問し、安否確認
	段ボールベッド組立訓練	段ボールベッドの組立てトレーニング
	防災用品の展示と促進	見本品を展示して家庭内備蓄を促進する
予備避難所開設訓練	指定管理者を中心に開設	
耐震性貯水槽水出し訓練	指定管理者を中心に手動による水出しを実施	
福祉避難所開設訓練	中山ちどりのスタッフを中心に開設	
地区災害対策本部機能訓練	エリア内拠点として情報集約及び発信を実施	
地区防災計画検証	訓練ごとに検証し、計画に反映	

(3) 防災資器材の整備・点検

ア 委員会は、中山ちどりと防災資器材保管場所確保のための協定を締結している。

イ 防災資器材は中山ちどりのストックヤードで委員会が管理する。

ウ 防災資器材を訓練時に使用した際は、残量を確認し避難所ごとに分別する。いつ発災しても、すぐに使用できる状態で保管する。（別紙「物品リスト」参照）

(4) 情報伝達網の構築

ア 伝令

もっとも確実な伝達手段として伝令を活用する。そのために、バイクなどで移動可能な人に協力を求める。

イ 電子メールなど

委員間の情報提供手段として、メーリングリストを使用する。

ウ 災害時優先携帯電話

緊急時優先携帯電話が学校に配備されているが、学校職員専用のため、地域利用は考えないこととする。

エ 無線

免許不要の無線は、山間部で送受信に限界があるため、アマチュア無線ができる人に協力を要請する。(別紙「電波伝搬調査成果」参照)

なお、2015年度に実施した第5回大規模避難訓練において、MCA無線機器をレンタルで利用した。その際、一部の地域では通信不可能であったため、他の通信所に中継させるなどの検討が必要。また、無線機の配備が急務である。

5 「災害時（非常時）」の取組み

(1) 地区災害対策本部立上げ

ア 地震の場合

(ア) 宝塚市に震度6弱以上の地震が発生した場合、災害対策委員で動ける人は、各自安全が確認でき次第、3時間以内に中山ちどりに集合する。

(イ) 緊急会議を開催し、必要に応じて地区災害対策本部を立上げる。

(ウ) 地区災害対策本部立上げを宝塚市へ報告する。

本部要員、指定避難所開設要員、予備避難所開設要員、福祉避難所支援要員、要援護者支援担当者を決定し、宝塚市災害対策本部による避難所開設を待つこととする。

(エ) 緊急会議閉会後は、各自持ち場に向かい、エリア

内の状況把握に務め、すべての情報を地区災害対策本部へ集約する。

イ 土砂災害の場合

- (ア) エリア内で通行困難を伴う大規模土砂災害が発生した場合、災害対策委員で動ける者は、各自安全が確認でき次第、3時間以内に中山ちどりに集合する。
- (イ) 緊急会議を開催し、必要に応じて地区災害対策本部を立上げる。
- (ウ) 地区災害対策本部立ち上げを宝塚市へ報告する。
本部要員、指定避難所開設要員、予備避難所開設要員、福祉避難所支援要員、要援護者支援担当者を決定し、宝塚市災害対策本部による避難所開設を待つこととする。
- (エ) 緊急会議閉会後は、各自持ち場に向かい、エリア内の状況把握に務め、すべての情報を地区災害対策本部へ集約する。

地区災害対策本部の役割分担（別紙「スタッフ調整表」参照）	
本部要員	災害対策委員を中心に本部長他の役割を担う
指定避難所開設要員	自治会長他災害対策委員及び委員経験者で担う
予備避難所開設要員	中山台コミュニティセンタースタッフを中心に担う
福祉避難所開設要員	中山ちどりのスタッフを中心に担う
要援護者担当要員	地域福祉ボランティアを中心に担う

(2) 地区災害対策本部の役割

避難所開設関連物資の使用許可を出すこととする。

災害情報、安否情報、支援情報等の提供や避難者同士の安否確認、情報交換など、避難者のニーズに応じた情報を収集する。避難所開設時には、避難者数の状況等を集約し、宝塚

市災害対策本部へ情報を提供する。また、宝塚市災害対策本部からの情報を各避難所や自宅避難者を含めた地域に周知する。

(3) 安全確認

各避難所に向かう際は、危険な場所（道路の状況、崖崩れ、山崩れの危険性、水位の状況等）がないかを確認しながら、自己の安全に気を付けて移動する。

(4) エリア内外の連絡手段

地域内での情報伝達は以下のいずれかで行うこととする。

ア 伝令

伝令はもっとも確実な伝達手段であり、バイクなどで移動可能な人に協力を依頼する。

イ 電子メールなど

メーリングリストによる情報を提供する。

平時、委員連絡に使用しているメーリングリストが機能していれば委員間の連絡に利用する。

ウ 災害時優先携帯電話

緊急時優先携帯電話が学校に配備されているが、学校職員専用のため、地域利用は考えないこととする。

エ 無線

免許不要の無線は、山間部で送受信に限界があるため、アマチュア無線ができる人に協力を要請する。（別紙「電波伝搬調査成果」参照）

(5) 居住エリアごとの避難所開設

エリア内の全指定避難所の安全が確認され、全ての指定避難所が開設された場合、概ね地域ごとの避難所は以下のとおりとする。なお、避難所の開設は、宝塚市地域防災計画に基づく。

指定避難所	居住エリア
中山桜台 小学校	中山桜台自治会エリアのうち4～6丁目、中山桜台七丁目自治会エリア、中山桜台ラヴェニール自治会エリア、ジャルダン弐番館管理組合エリア
中山五月台 小学校	中山五月台7丁目自治会エリア
中山五月台 中学校	中山五月台自治会エリアのうち3～5丁目、中山五月台公団住宅自治会エリア、中山五月台6丁目自治会エリア、ジャルダン壱番館自治会エリア、ツウイング壱番館自治会エリア、ツウイング宝塚中山弐番館自治会エリア
宝塚東 高等学校	中山台自治会エリア、中山五月台自治会エリアのうち1～2丁目、中山桜台自治会エリアのうち1～3丁目、宝塚中山ヒルズ自治会エリア、セーリオ宝塚自治会エリア

(6) 避難所開設関連物資

ア 宝塚市配備物資

	桜台 小学校	五月台 小学校	五月台 中学校	宝塚東 高等学校	コミュニ ティセン ター	中山 ちどり
段ボールベッド (セット)	10	10	10	2	0	10
毛布 (枚)	100	100	100	20	0	30

上記、段ボールベッド・毛布以外は宝塚市の地域防災計画を参照（ホームページに掲載）

イ 委員会配備物資

(ア) 委員会との協定に基づき、無償提供されている中山

ちどりのストックヤードで保管する。(別紙「物品リスト」参照)

(イ) 訓練時は委員会の判断で使用するが、発災時は避難所開設後に立上げる地区災害対策本部の判断で使用する。

(7) 避難所となる建物への立入り

宝塚市災害対策本部による避難所開設の決定後、施設管理者、若しくは宝塚市災害対策本部より鍵を持った市職員が来て開錠されるまで待機する。

(8) 飲料水兼用耐震性貯水槽の鍵の管理

宝塚市東消防署中山台出張所、及び宝塚市立中山台コミュニティセンターで水出しマニュアルと共に保管する。

6 災害時要援護者（避難行動要支援者）の支援の取組み

大規模避難訓練の自宅避難者搜索訓練で寄せられた避難行動要支援者情報を元に地域内の支援体制を構築していく。

(1) 災害時要援護者（避難行動要支援者）名簿について

ア 大規模避難訓練実施時に手あげ方式で申し出た人に、所定の用紙に必要事項を記入していただき、災害時要援護者（避難行動要支援者）情報として集約し、名簿を作成する。

イ 名簿は、委員会が、中山ちどりのストックヤードで保管する。

ウ 名簿掲載情報は、毎年訓練時に現状を確認し、必要に応じて更新する。

(2) 災害時要援護者（避難行動要支援者）名簿の公開について

名簿の公開は、災害発生時に、委員会、または地区災害対策本部で決することとし、自治会、民生委員、消防、警察、行政に情報を提供し、迅速な対応に役立てる。

(3) 災害時要援護者（避難行動要支援者）の災害危険情報伝達手段について

安心メールで情報を入手する他、防災ラジオによる情報入手方法があることを周知し、その普及を促進する。

7 地区の具体的な防災対策

(1) 所属団体の防災活動とその支援について

ア 地区内の自主防災会は、それぞれの規定にあわせて随時避難訓練を実施する。

イ 所属団体の訓練等に必要な資器材貸与など、委員会への要請があれば可能なかぎり支援する。

(2) 防災・減災対策の啓発活動について

ア 防災アンケートを全世帯対象に実施し、地域の意識調査を行う。

イ 防災減災の意識啓発に取り組むイベントを実施する。

[例] 防災バスツアー、防災キャラバンによる救命講習、防災講演会、避難所運営ゲームなど

ウ 備蓄促進活動として、大規模避難訓練実施時に、備蓄品の見本展示や、備蓄のための資料を配布し、家庭内備蓄の大切さを周知する。

エ 「防災キャラバン」として応急救護トレーニングを企画し、普通救命講習受講者の増員に務める。南海トラフ巨大地震などを想定した災害対策講座を実施する。

オ 地区災害対策本部を立上げて、エリア内の避難所の情報収集を行うと同時に、避難所間の物資調整を行うためのトレーニングを継続して行う。

カ 避難行動を地域住民に周知徹底する。

8 防災マップについて

- (1) 平成24年4月に地域内の全避難所がわかる「みんなの防災」を全戸に配布した。
- (2) 大規模避難訓練参加時に、参加者が各自危険箇所確認地図を手にして、経路の安全を確認しながら避難所へ向かうこととする。参加者より危険箇所情報を集約し、危険箇所を記載した避難経路地図を全戸に配布する。

9 計画策定後の研修、訓練実施の考え方

- (1) 計画をもとに研修や訓練を継続して実施していくこととする。
- (2) 策定後の訓練を「計画の検証」と位置付け、訓練実施後にはかならず反省会を行い、必要に応じて計画を見直すこととする。

10 災害対策委員会活動

定例会議・防災啓発イベント企画・防災減災啓発広報活動や大規模避難訓練などを継続的に実施するとともに、地域内の自主防災組織や集合住宅管理組合など、各団体間の連携を図る。

1 1 参照資料

(1) 備品リスト

災害対策委員会 訓練備品リスト									
品 目	総数	桜小	五小	五中	東高	コミ セン	ちどり	地区 災対	宝塚市 災対
上記、各会場毎に以下の内容で必要数を配備									
掲示関係(模造紙大用紙)									
大規模避難訓練 看板、エリア地図、エリア地図(災害対処用)、当日行程表、訓練会場掲示物(訓練コンセプト等)									
会場準備品関係									
腕章(委員長、統括、広報、災害対策委員、救護搬送、捜索隊、避難誘導、物資持ち出し、防災グッズ、炊き出し、記録、通信、予備) 表示板 ラミネート加工済み(大規模避難訓練実施中、避難所、受付、土足厳禁、御手洗、訓練関係車両駐車場、矢印、ペット同伴禁止) ビブス、メガホン 大・中・小、ホワイトボードシート、石油ポンプ、バケツ、ブルーシート、カラーコーン									
訓練グッズ関係									
プレート(大規模避難訓練 自宅避難中、要援護者 福祉避難所、要援護者 予備避難所、要援護者 指定避難所)									
事務用品関係									
コンテナボックス、3色ボールペン、ボールペン 赤・黒、クリップボード、えんぴつ、消しゴム、色マジック、赤マジック 大・小、黒マジック 大・小、ホワイトボードマーカー 赤・黒・青、シャープペンシル、クリップ付ペンシル、クリップ 大・小、ペーパークリップ、安全ピン、プッシュピン、布ガムテープ、養生テープ、 台付セロテープ、替 セロテープ、両面テープ、付箋 大・中、はさみ、カッター、ホッチキス、ホッチキス 芯、パンチ、輪ゴム 適宜1組、張り紙プレート、くくりひも 適宜1組、ノート、レポート用紙、クリアファイル、CD-R、荷札、単3電池、ペーパーカッター機									
参加修了証関係									
ラミネート加工済み修了証(名前シールなし・名前シールあり)、修了証予備、名前シール、マイタック色シール(参加マーク用 適宜1組)、									

炊出し関係

かご、やかん、一斗缶（吸い殻入れ）、スチールたわし、トング、キッチンばさみ、しゃもじ、炊き出し用バケツ 大・小、柄杓、おしぼり、ゴム手袋 M・L、ポリ手袋新（100枚入り）、ポリグローブ（20枚×2、1組）、ジップロック 大・小、キッチンタオル、アルミホイル、

訓練当日提供品関係

ひも 適宜1組、ぞうきん、マスク、バンドエイド、おしりふき、薬用ハンドジェル、ゴミ袋（45030枚入り）、ゴミ袋 小（持帰用・100枚入り）、傘袋、レトルトカレー、即席みそ汁、ほうじ茶（4g入り）、カレー皿（50枚入り）、カップ（100個入り）、スプーン 大（50個入り）

研修用品関係

避難所運営ゲーム、マス目入り模造紙、白模造紙、データ用USB、止血用ガーゼ、止血用タオル、止血用棒 大・中・小

備蓄資機材関係

簡易組立トイレ、トイレ処理セット（100回分セット）、避難所用間仕切り（4部屋セット）


家庭内備蓄資器材展示品関係

軍手、厚手手袋、ヘッドライト、LEDヘッドライト、ボンベ、コンロ、チャッカマン、ほうき、チリトリ、台車、土のう袋

- ※ 前年度訓練終了後に確認をした内容で、1年の間に使用できなくなったものがないか確認します。
- ※ 書かれていないもので、必要と思う物があれば、紙に書いて総務班へご提出ください。可能なかぎり揃えます。

(2) 電波伝搬調査成果

電波伝搬調査成果 (評価・分析：平成25年度災害対策委員会)

時 期	平成25年7月14日(日) 08:10~10:40
気 象	曇り(調査に影響なし)
調査地域	1 中山台コミュニティエリア 2 別紙「調査地域」
使用通信器材	 <p>品名、型番：モトローラGDR3500 重量：約355g(バッテリー含む。) 送信出力：5W チャンネル数：30 通話距離：3Km(直線) その他：防水・防塵 免許不要 携帯・操作が容易</p>
実施要領	1 1セット(2個)の器材を使用し、1個を中山ちどりに固定し、残りの1個をもって15ヶ所の調査点(各指定避難所等)を巡回させ通信を実施し、電波伝搬状況(伝搬の有無、感度、明瞭度)を調査 2 調査結果を記録・分析
調査結果	1 調査地域に存在する北から南に縦走する数か所の丘陵地形により、発信電波が遮られ、中山ちどりと3ヶ所の調査点(中山桜台7丁目、中山五月台小学校、中筋山手第2公園)の間において、地表波通信が不可能 2 その他調査点は本使用通信機材において通信可能
分析結果	1 本通信器材あるいは同等のスペックの通信器材において、中山台コミュニティエリア内の通信は確保可能であり、防災器材として有効(電波の到達範囲、操作の容易性、可搬性) 2 通信不能地域(3ヶ所)との通信は他の通信所(通信器材)を中継させれば通信の確保が可能 中継の一例：中山五月台小学校との通信は中山五月台中学校を中継し通信を実施

(3) 無線機配置表

無線機配置表（大規模避難訓練）				
使用場所・団体		通信相手	無線機 番号	担当者名・電話番号
宝塚市 災害対策本部	本部	地区本部		
	地域福祉	トリアージ班		
	トリアージA班	地域福祉		
	トリアージB班	地域福祉		
中山台地区 災害対策本部	本部	市災対本部		
	本部	指定避難所		
	本部	コミセン・車両班		
宝塚東 高等学校	本部	地区災対本部		
	搜索隊	東高校本部		
桜台 小学校	本部	地区災対本部		
	搜索隊	桜台小本部		
五月台 小学校	本部	地区災対本部		
	搜索隊	五月台小本部		
五月台 中学校	本部	地区災対本部		
	搜索隊	五月台小本部		
コミ ユニ ティ センター	本部	地区災対本部		

使用場所・団体		通信相手	無線機 番号	担当者名・電話番号
福祉避難所・車両班	本部	地区本部		
	車両A	車両班本部		
	車両B	車両班本部		
	車両C	車両班本部		

※無線機使用については事前に講習を行います。

※電話番号は、事前に連絡が必要になった場合や、
訓練中に無線機が使えない場合に、止む無く使用させていただくことがあります。

(4) 大規模避難訓練スタッフ調整表

スタッフ調整表（第 回 大規模避難訓練）	
【指定避難所】 _____	会場

災害対策委員会

項 目	所属団体	氏名（年齢）	連絡先	前回訓練
会場長				
本部班	班長（副会場長）			
	会場設営・ 統制応急救護・ 撤収			
	記録・写真 アンケート			
通信				
避難者受付訓練班	班長			
	避難者受付			
避難誘導				
炊出し訓練班	班長			
	炊出し			
用品展示班	班長			
	防災用品 展示			
段 組 ポ 立 ー ル 班	班長			
	組立て			
自 宅 宅 避 難 者 者 索 者 隊	班長			
	搜索訓練班 搜索隊			

スタッフ調整表（第 回 大規模避難訓練）

【予備避難所】 会場

災害対策委員会

項目	所属団体	氏名（年齢）	連絡先	前回訓練
会場長				
本部班	班長（副会場長）			
	会場設営・ 統制応急救護・ 撤収			
	記録・写真 アンケート			
通信				
避難者受付訓練班	班長			
	避難者受付			
避難誘導				
炊出し訓練班	班長			
	炊出し			
用品展示班	班長			
	防災用品 展示			
段ボール 組立て班	班長			
	組立て			
耐震性貯水槽 水出し訓練	班長			
	搜索隊			

スタッフ調整表（第 回 大規模避難訓練）

【福祉避難所】 会場

災害対策委員会

項目	所属団体	氏名（年齢）	連絡先	前回訓練
会場長				
本部班	班長（副会場長）			
	会場設営・ 統制応急救護・ 撤収			
	記録・写真 アンケート			
通信				
避難者受付訓練班	班長			
	避難者受付			
避難誘導				
炊出し訓練班	班長			
	炊出し			
車両班	班長			
	配車担当			
	車両 1			
車両 2				
段ボール組立班	班長			
	組立て			

スタッフ調整表（第 回 大規模避難訓練）

【地区災対本部】 会場

災害対策委員会

項目	所属団体	氏名（年齢）	連絡先	前回訓練	
本部長					
企画統制班	班 長				
	状況把握				
	通 信				
	情報処理				
	状況付与				
	計画検証				
	視察対応	受付・案内			
	管理班 （総務）	班長			

スタッフ調整表（第 回 大規模避難訓練）

【仮想宝塚市災对本部】 会場

災害対策委員会

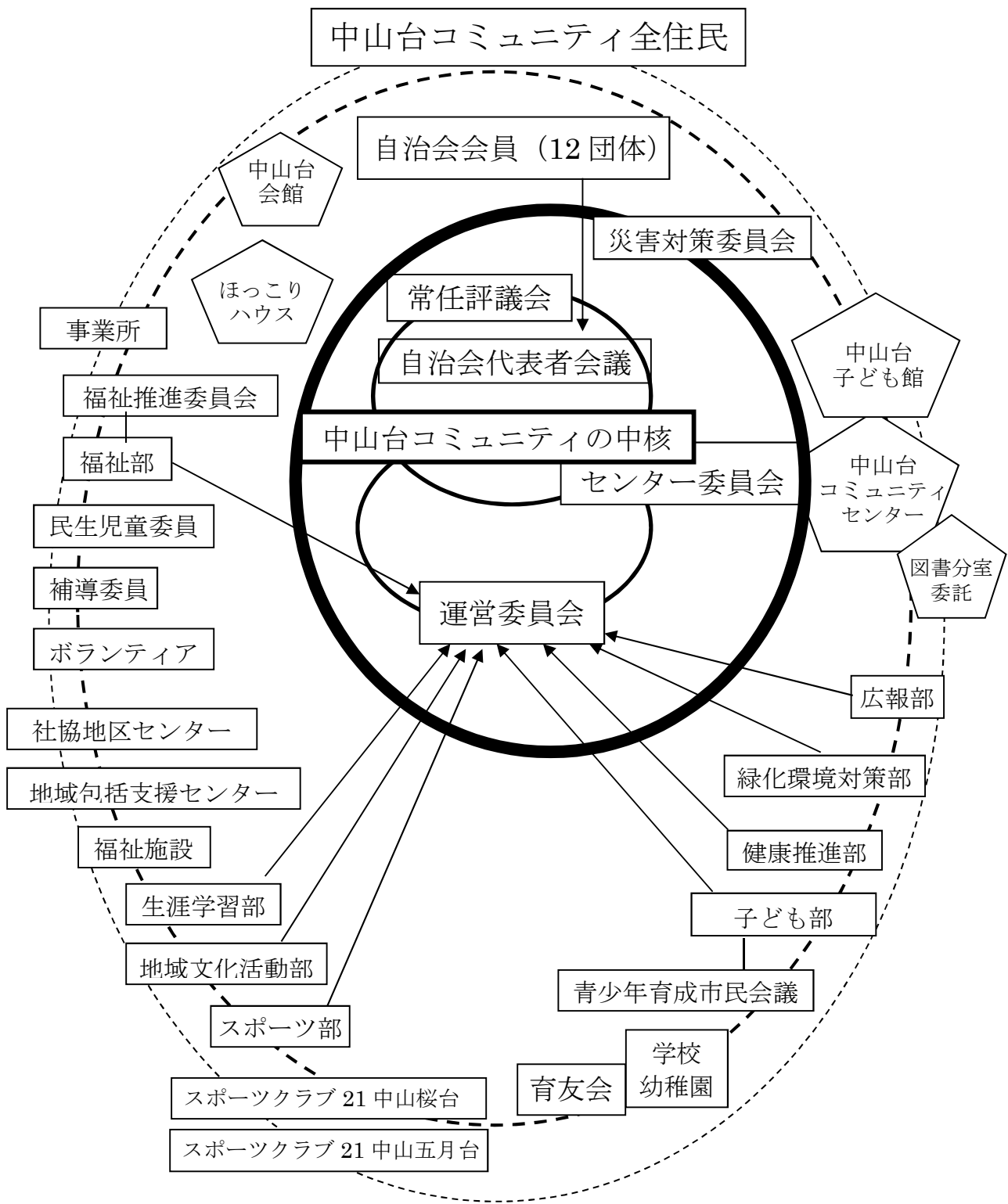
項目	所属団体	氏名（年齢）	連絡先	前回訓練
本部長				
企画統制班	班 長			
	状況把握			
	通 信			
	情報処理			
福祉班	班長			
	トリアージ班			
計画検証				
消防	班長			
管理班 (総務)	班長			

(5) 災害対策委員会の成り立ちと団体関係図

委員会の成り立ち

- 平成23年 2月 中山桜台小学校区災害対策検討委員会が発足
中山台ニュータウンエリア全域を対象とした委員会の発足をめざして、五月台小学校区にも声掛けを実施
最終的にエリア内全自治会、全学校園、他各種団体が参加
- 平成23年 3月 東日本大震災 発生
8月 紀伊半島大水害 発生
- 平成24年 1月 中山台ニュータウンエリア災害対策委員会として、第1回大規模避難訓練を実施
- 平成24年12月 中山台ニュータウンエリア災害対策委員会として、第2回大規模避難訓練を実施
- 平成25年10月 中山台コミュニティエリア災害対策委員会(名称変更)として、第3回大規模避難訓練を実施
(エリア内の管理組合も参加)
- 平成26年 5月 中山台コミュニティ定期総会にて、「中山台コミュニティ災害対策委員会」の名称で、運営委員会に所属する事を承認された
- 12月 中山台コミュニティ災害対策委員会として、第4回大規模避難訓練を実施
(自治会の無いマンション管理組合なども参加)
平成26年8月豪雨(広島土砂災害) 発生
- 平成27年11月 委員会は中山台コミュニティ常任評議会に「中山台コミュニティ地区防災計画」(中山五月台中学校区)を提案し、承認され、地域作製の計画として宝塚市へ提出

中山台コミュニティエリア団体関係図



(2015年5月現在 総会資料抜粋)